

避難治戈援

復興信じ

ムダ」の理事難波妙さん山県の認定NPO法人「ア

(52)=同県総社市=が、熊

本地震の避難所になった母 校で、医療支援チームを指

揮している。生まれ育った 健康を支える。 故郷の被災に心を痛めなが ら、復興を信じて避難者の

母校で医療チ

でつくる。2004年のス 看護師、薬剤師、介護士ら

アムダは国内外の医師や

被災地で医療支援に取り組 マトラ島沖地震など世界の

(左)=益城町広安小の保健室に

一に設けた救護所で、スタッフに指示を出す「アムダ」の難波妙さん

難波さんは前震発生直

聞き、薬や物資調達に奔走

輩の男性と、真夜中の廊下

で2人で校歌を歌った。「美

フから避難者の健康状態を

老人ホームにいた父も無 町へ。母は広安小に避難し、 後の4月15日朝、夫と益城

事だった。熊本市のホテル で本震に襲われながら、ア ムダの受け入れを実現し

00人が避難。 アムダは救 護所を設け、診療や針きゅ 広安小はピーク時に約7

たった。難波さんは事務方

路も、道沿いの家が崩れて

られた。幼い頃歩いた通学

う、高齢者の介助などにあ

み、東日本大震災でも活躍 のリーダー役。医療スタッ

避難者の中には、同級生

70人以上が救護所に来た日 や近所の顔なじみも多い。

「大好きな地元の

るのはつらかった」と振り 人が疲れ切っているのを見

き、「危険」の赤い紙を貼 2度の震度7で実家は傾 さんは、自らの役割をあら と信じる。その主役になる のは、健やかな被災者だ。

道をふさいだ。「なぜ、ふ るさとが…」。惨状に胸が 詰まった。

年寄りに付き添ってきた後 めく母校にいると懐かし い。湿布をもらいに来たお それでも、避難者がひし

ら
今日もまた」。故郷へ の誇りが込み上げてきた。 「この町は必ず復興する」 い郷広安の/学童われ 街並みは壊れたけれど、

ためて見つめている。 「全力で支えたい」。難波 (益田大也)